

美術研究科建築学専攻

養成人材およびカリキュラム編成の方針

建築学専攻では、設計・研究活動を前提とした高度な専門性をもち社会に貢献する人材を養成することを目指している。学士課程等で得た教育内容を基本にし、建築学領域におけるより高度で専門的な内容の学科科目と、研究室毎に行われるゼミ授業でカリキュラムは構成されている。ゼミでは教員の指導のもと、学生自らが研究テーマを定め、修士作品制作（または修士論文執筆）に取り組み、その研究成果を「修了作品展」において発表する。

求める入学者像

- ・学部において建築に関する十分な知識と技術と表現力を身につけたうえで、設計・研究活動を前提とした高度な専門性を追求する者
- ・総合芸術としての建築に強い関心を持ち、豊かな構成力・構想力・分析力・表現力・創造力を持つ者
- ・建築をとおして他者と繋がり、社会との関係を主体的に追求する者
- ・学問に対して意欲的であり、探究心に富んでいる者

卒業認定・学位授与の方針

最終年次の「修了制作」を含めた所定の単位を修得した学生を修了と認め、修士の学位を授与する。

カリキュラム構成

【修士1年次】

学科科目は、学部での学習を踏まえたうえでより高度な専門性を獲得すべく、「特論 建築史Ⅰ～Ⅲ」、「特論 環境計画Ⅰ・Ⅱ」、「特論 建築構造論Ⅰ・Ⅱ」、「特論 建築都市計画論Ⅰ・Ⅱ」「特論 建築論Ⅰ・Ⅱ」、「特論 建築情報学」といった幅広いテーマのカリキュラムから構成される。所属する研究室で行われるゼミ（所属研究室が建築設計・環境設計の場合は「建築設計研究 第1～2」、所属研究室が構造計画の場合は「構造論研究 第1～2」、所属研究室が建築理論の場合は「建築史研究 第1～2」）では、教員の指導のもと独自の研究テーマを設定し、「修士論文等」（修士作品または修士論文）に向けて調査研究を進める。

【修士2年次】

学科科目は、修士1年次に引き続き、より高度な専門性を獲得すべく、「特論 建築史Ⅰ～Ⅲ」、「特論 環境計画Ⅰ・Ⅱ」、「特論 建築構造論Ⅰ・Ⅱ」、「特論 建築都市計画論Ⅰ・Ⅱ」「特論 建築論Ⅰ・Ⅱ」「特論 建築情報学」といった幅広いテーマのカリキュラムから構成される。所属する研究室で行われるゼミ（所属研究室が建築設計・環境設計の場合は「建築設計研究 第3」、所属研究室が構造計画の場合は「構造論研究 第3」、所属研究室が建築理論の場合は「建築史研究 第3」）では、教員の指導のもと独自の研究テーマを設定して調査研究を進め、その集大成として「修士論文等」（修士作品または修士論文）に取り組む。

【次ページへ】

教育目標				
①高度な科学的知識や思考力を養う				
②感受性の鋭さや表現の多様性を前提とし、独自の表現を追求する				
③建築に関連する多様な技術や文化、および建築を取り巻く社会に対する造詣をさらに深める				
④その他、建築士資格を登録するために必要な実務経験を積む				
建築設計 環境設計	1年次	必修科目	建築設計研究 第1	①②③
			建築設計研究 第2	①②③
	2年次	必修科目	建築設計研究 第3	①②③
構造計画	1年次	必修科目	構造論研究 第1	①②③
			構造論研究 第2	①②③
	2年次	必修科目	構造論研究 第3	①②③
建築理論	1年次	必修科目	建築史研究 第1	①②③
			建築史研究 第2	①②③
	2年次	必修科目	建築史研究 第3	①②③
建築設計・環境設計・構造計画・建築理論 共通選択科目			特論 建築史Ⅰ	①③
			特論 建築史Ⅱ	①③
			特論 建築史Ⅲ	①③
			特論 環境計画Ⅰ	①③
			特論 環境計画Ⅱ	①③
			特論 建築構造論Ⅰ	①②③
			特論 建築構造論Ⅱ	①②③
			特論 建築都市計画論Ⅰ	①②③
			特論 建築都市計画論Ⅱ	①②③
			特論 建築論Ⅰ	①③
			特論 建築論Ⅱ	①③
			特論 建築情報学	①③
			学部開設科目及び 他専攻開設科目	①③
			インターンシップ	③④
			美術研究科プロジェクト演習	②